



「寝屋川の家」 設計者:若林秀典建築設計事務所 ～狭小地に住まうことを積極的に楽しめる～



[撮影:笹倉洋平]



受賞者の声

家族の笑顔が溢れる空間

小さい頃からマイホームを持つことが夢でした。完全な注文住宅で、毎回の打ち合わせが本当に楽しかったです。私たちが家づくりで大切にしたのは、家族の笑顔が溢(あふ)れる空間をつくることです。そのため一番こだわったのがリビング。自然と家族が集まったのがリビング。自然と家族が集まって木のぬくもりが感じられる空間になっています。また、1階から屋上までが一つの空間として家全体がつながっているため、どこでも家族のぬくもりが感じられるようになっていきます。3月には息子を出産予定ですが、このマイホームで家族団らんの時間を過ごすことを、とても楽しみにしています。寝屋川市に引っ越してきてまだ少ししかたっていませんが、もともと寝屋川ライフを楽しんでいけたらと思います。

設計Point

敷地は住宅が密集する地域にぽっかりと取り残された変形の狭小地で、前面道路も狭く、計画の段階から施工方法や資材の搬入も検討が必要でした。そこで構造は手組みが可能な木造とし、各部材も大きくなり過ぎないようにしました。

具体的には、床を4段階に小分割し、らせん状にスキップさせながら屋上までつなぎ、複数の居場所を各フロアに点在させながら連続させることで空間に広がりを感じさせています。

また、最上段のダイニングキッチン付属のパントリーからは屋外階段を通じて、屋上へと抜けることができます。

建物が密集した都市の狭小地は広々と庭を取ることも難しく、屋上は唯一の開かれた外部空間です。スキップフロアで居場所を連続させ、開かれた屋上までを緩やかにつなげることで、狭小地に住まうことを積極的に楽しめる、そんな住宅になればと願いを込めた設計です。



特集 2 第2回 ねやがわ 建築賞

問 住宅政策課(☎825・2266)

公共施設と一体となって 「まちのリノベーション」を推進



【第1回ねやがわ建築賞の受賞作品の一部】

ねやがわ建築賞とは?

空き家や空き店舗のリノベーション・リフォームの推進や不動産の流通促進を図り、居住環境に対する市民意識の向上とまちのイメージ向上を図ることを目的として実施するもので、令和3年度に第1回を実施し、今回は2回目の実施となります。



▲授賞式の様子

◀内に開く家

▼ニコイチ [撮影:©Kenta Hasegawa]



図と地のリノベーション [撮影:笹倉洋平]

▶四畳半キューブの家 [撮影:笹倉洋平]



第2回
ねやがわ
建築賞
優秀賞
【住宅部門】

「House T」

設計者:HAMADA DESIGN
～立体的に繋がる家～

【撮影:笹倉洋平】



第2回
ねやがわ
建築賞
特別賞

「焼杉の家」

設計者:HAMADA DESIGN
～中庭のある四角いドーナツ～

【撮影:笹倉洋平】

設計Point

木造2階建てですが、2つの吹き抜けと少しずつ床をずらすことでフロアが4つあります。それらをつなぐブリッジなどが複雑に絡み合うことで、立体迷路のような家がつくれないかとの着想から設計を始めました。外壁は真っ白にして、シックでキューブっぽく仕上げました。



受賞者の声

子どもの成長がわかる家

10年前に妻の地元である寝屋川市に家を構えました。私たちの希望は、立地が北向きでも明るく、家事導線がスムーズな家でした。建築士の濱田さんと何十回と打ち合わせを重ね、希望どおり、南側に全面ガラス張り、7.5mの吹き抜け、アイランドキッチンを中心とした水回りなど生活がスムーズになるような導線となりました。一つだけ想定外なことが。リビングが快適過ぎて、せっかく子ども部屋を作ったのに、子どもたちが全然子ども部屋に行かず、ずっとリビングにいることです。兄弟でサッカーや受験勉強もリビングです。子どもの成長がよく分かるとても素敵な家となりました。

設計Point

南・西側に接道している角地で、人通りが多く、プライバシーを守りにくいことから、建物全体を四角いドーナツ型にして、中庭に面してリビングを設け、境界となる部分を木製の5枚の引き戸で構成しています。引き戸を片側に開くと、リビングと中庭が一体化します。この一体化された中庭リビングは外から全く見られることなく、快適に過ごすことができるつくりとなっています。

受賞者の声

思い出を生み出す中庭

中庭をドーナツの穴のように囲ったことにより、単なるスペースだけではなく、意味のある空間になりました。家族みんながこの中庭を気に入って子どもが小さい頃は中庭でプールをしたり、冬はクリスマスツリーを飾ったり、思い返すと中庭で非常に良い思い出がたくさんできました。日々自然を感じながら暮らしているこの家を大切にメンテナンスして、これからも末永く暮らしていきたいです。



「街とつながる、人とつながる」

SANPA食堂

設計者:HAMADA DESIGN

第2回
ねやがわ
建築賞
優秀賞
【一般建築部門】

設計Point

コロナの影響で換気が必要という理由もあり、店舗入り口は大きな3枚引戸とし、気候の良い日は開放しながら営業することで街とつながる計画です。内部は、杉古材やモルタル、タイルで統一し、温かみのある雰囲気演出。あえてローカウンターとすることでゆったりとくつろげる空間とし、カウンターの一部を円形とすることで、家族のように料理を囲むことができます。



第2回
ねやがわ
建築賞
優秀賞
【一般建築部門】

「食堂計画」

香里ヌヴェール学院

設計者:株式会社住まい工房 集 + kotarookuda architect office 一級建築士事務所

設計Point

1932年、アントニン・レーモンド設計の香里ヌヴェール学院。彼の建築観を読み解きながら、空間の再生を試み、歴史・文化的価値を継承していくことでこの空間が学校に関わる全ての人たちにとって、記憶に残る場所となることを目指しました。雨天体操場を食堂へ改修するにあたり、この場所を食堂の用途だけにとどまらない包容力と拡(ひろ)がりを持つ場へ位置づけることが重要だと考え、食堂の周辺環境も含めた居場所づくりを目指し、校舎間につくられた中庭の魅力を取り込むようにしています。

【撮影:浅野豪】